

マリンパック

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになつたあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MPK-THB

© 2004 Sony Corporation Printed in Japan

<http://www.sony.co.jp/>



この説明書は100%古紙再生紙とVOC(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

必ずお読みください

- 実際に水中で撮影する前に、水深1mくらいのところで、デジタルスチルカメラが正常に作動するか、またマリンパックに水漏れがないかを確認してから、潜水を開始してください。
- 万一マリンパックの不具合により水漏れ事故を起こした場合、内部機材(デジタルスチルカメラ、バッテリーなど)の損害、記録内容、および撮影に要した諸費用などの補償はご容赦ください。
- マリンパックおよび内部機器に対する損害保険をご用意しております。案内書をお読みのうえ、ご加入をおすすめします。

主な特長

- 本機はソニーのデジタルスチルカメラDSC-T3/T33専用のマリンパックです。
- お手持ちのデジタルスチルカメラに本機を取り付けると、雨天時や海辺(水中では水深40m以内)または雪や雨などの悪天候時での撮影ができます。

○リングのはずれやはさみ込み、ゴミの付着などがあると、水中で水漏れがおきます。
必ず確認したあとに、ご使用ください。
詳しくは、○リングメンテナンスマニュアルをお読みください。

安全のために

ソニー製品は、安全に充分配慮して設計されています。しかし、まちがつた使いかたをすると、火災などによる人身事故が起きるおそれがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- 安全のための注意事項を守る
- 故障したら使わずに、テクニカルインフォメーションセンターに修理を依頼する

- ① 電源を切る
② テクニカルインフォメーションセンターに修理を依頼する

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

注意

行為を禁止する記号 行為を指示する記号
禁止 注意

△警告 下記の注意事項を守らないと、事故により死亡や大けがの原因となります。

潜水中の使用は周囲の状況を把握し、安全に充分注意を払う
注意を怠ると、潜水事故の原因となります。
万一、マリンパックに水漏れが発生した場合
あわてず身体に影響がないように、浮上時の減圧時間を守り、周囲の状況に注意しながら浮上してください。

△注意 下記の注意事項を守らないと、けがをすることがあります。

衝撃を与えない
ガラス部分が割れて、けがの原因となることがあります。

- 禁止

取り扱い上の注意

- 本体の前にあるガラス面に強い衝撃を与えないでください。割れることがあります。
- 海辺や海上でのマリンパックの開閉はできるだけ避けてください。デジタルスチルカメラの取り付けや“メモリースティック デュオ”または“メモリースティック PRO デュオ”交換などは、湿気の少ない、潮風のあたらない場所で行ってください。
- マリンパックを水中に投げ込まないでください。ただし、デジタルスチルカメラの取り付けは湿気の少ない室内などで行ってください。
- 波が高い場所でのご使用は避けてください。
- 次のような環境でのご使用は避けてください。
 - 高温多湿な場所
 - 40°を越える温水の中
 - 0°以下の場所
 結露、水漏れ、デジタルスチルカメラの故障の原因になります。
- 周囲温度が35°を超えるときのご使用は、連続30分以内にしてください。
- 高温多湿の場所や炎天下に長時間放置しないでください。やむをえず直射日光のあたる場所に置く場合は、上からタオルなどをかけて保護してください。
- 万一、防滴パッキンがはずれた場合は、ねじれないように注意して取り付けてください。
- マリンパックに長時間収納して使用していると、デジタルスチルカメラが熱くなります。日陰などの涼しい場所にしばらく放置してから、デジタルスチルカメラを本機から取り出してください。
- 万一、フロントプロテクターがはずれた場合は、フロントプロテクターの向き(イラストA)を合わせ、しっかりと押し込むようにして取り付けてください。

フロントガラスのくもり止め効果について

マリンパック前部のガラス面は、くもり止めの効果がある構造になっています。ただし、デジタルスチルカメラの取り付けは湿気の少ない室内などで行ってください。

- サンオイルなどが付着したときは、ぬるま湯でよく洗い流してください。
- マリンパックの内部は図のAとBを矢印の向きに取りはずしてから、乾いた柔らかい布で拭き、水洗いはしないでください。

Oリングについて

本機はOリング(オーリング)を使用して防水性を保っています。詳しくは、別冊のOリングメンテナンスマニュアルをご覧ください。

Oリングの取り扱いかたが不適切だと水漏れの原因になります。

防滴パッキンについて

防滴パッキンをはずしたり、グリスを塗らないでください。防滴パッキンの浮き、はさみ込みは水漏れの原因になります。

万一、防滴パッキンがはずれた場合は、ねじれないように注意して取り付けてください。

マリンパックに長時間収納して使用していると、デジタルスチルカメラが熱くなります。日陰などの涼しい場所にしばらく放置してから、デジタルスチルカメラを本機から取り出してください。

万一、フロントプロテクターがはずれた場合は、フロントプロテクターの向き(イラストA)を合わせ、しっかりと押し込むようにして取り付けてください。

Oリングと防滴パッキンの耐用年数

Oリング
マリンパックの使用頻度や保存状態によって変わりますが、1年程度です。

防滴パッキン
防滴パッキンに傷・ヒビが見つかったら交換してください。

交換後に、水漏れしないことを確認してください。

グリスについて

グリスは付属の青いチューブのグリスをお使いください。黄色いチューブのグリスや他社のグリスを使うと、Oリングを傷め、水漏れします。

Oリング、防滴パッキン、グリスのお問い合わせ

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

Oリング(番号3-080-065-01)

防滴パッキン(番号3-080-066-01)

グリス(番号3-071-370-01)

お手入れのしかた

主な仕様

材質

プラスチック(PC、ABS)
ステンレス、ガラス

防水構造

Oリング、パッフル

耐圧

水深40 mまで

外部より操作可能なスイッチ

POWER(パワー)
MODE(モード)

シャッター、ズーム、フラッシュ、マクロ、コントロール、セルフタイマー、レビュー、メニュー、画像サイズ/削除、画面表示/LCDパックライトオン/オフ

最大外形寸法

(最大突起部を除く)

136×94×49 mm
(幅/高さ/奥行き)

質量

約285 g(本体のみ)

同梱物

マリンパック(1)
ハンドストラップ(1)

グリス(1)

Oリング(1)

スペーサー(1)

印刷物一式

別売りアクセサリー

カラーフィルターキット :
VF-MPTH

アームキット : VCT-MP1K

水中ビデオライト :
HVL-ML20M

(アームキットVCT-MP1K、
"インボリチウム"(Mシリーズ))

バッテリ - 、(バッテリ - チャージャー)との併用が必要です。)

保管するときは

- Oリングの劣化を防ぐため、お買い上げ時に付いていたスペーサーを取り付けてください。

シナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので、使わないでください。

上記のお手入れはマリンパックご使用のたびに必ず行ってください。

シナー、ベンジン、アル

準備

デジタルスチルカメラの準備

デジタルスチルカメラの取り付けは、湿気の少ない室内などでおこなってください。高温多湿な場所でのマリンパックの開閉は、マリンパック前部のくもりの原因となります。

デジタルスチルカメラの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 デジタルスチルカメラのストラップをはずす。

充分に充電してあるバッテリーを入れてください。

2 バッテリーを入れる。

デジタルスチルカメラのストラップをはずす。

3 “メモリースティック デュオ”または“メモリースティック PRO デュオ”を入れる。

4 デジタルスチルカメラの電源を入れる。

5 デジタルスチルカメラのLCDパックライトを「ON」にする。

6 デジタルスチルカメラの各設定をオートにする。

7 デジタルスチルカメラのAFイルミネーターを「OFF」にする。

AFイルミネーターは使用できません。

8 デジタルスチルカメラのレンズや液晶画面が汚れていないことを確認する。

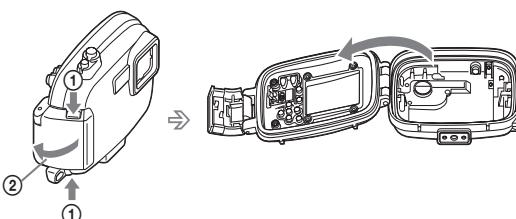
デジタルスチルカメラをマリンパックに取り付ける

1 デジタルスチルカメラの電源を切る。

2 デジタルスチルカメラのモードスイッチを「■」にする。



3 マリンパックを開ける。



上下のOPENボタンを同時に押しながら①、バックルを矢印②の方向にはすし、マリンパックのボディーを開く。

ご注意

スペーサーは、マリンパックを保管する際に必要ですので、紛失しないようにご注意ください。

4 マリンパックの準備をする。

別冊のOリングメンテナンスマニュアルを必ずお読みください。
Oリングの取り扱いについての重要な説明が書かれています。

① Oリングを取りはずす。

② Oリングにグリスを塗る。

Oリング、溝および本体との接触面の砂やゴミなどをきれいに取り除き、Oリングに薄く均一にグリスを塗る。

③ Oリングを取り付ける。

④ 防滴パッキンに砂やゴミが付着していないかを確認する。

ご注意

・防滴パッキンをはずしたり、グリスを塗ったりしないでください。
・砂やゴミが付着したままふたを閉めると、本体に傷をつけたり、水漏れの原因となることがあります。

5 マリンパックのモードダイヤルの位置をイラストのように合わせる。

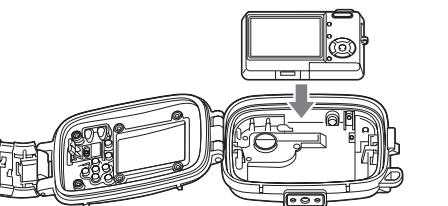
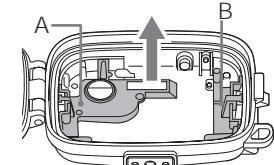


6 マリンパックにデジタルスチルカメラを取り付ける。

デジタルスチルカメラを出し入れするときは、必ず電源を切ってください。電源が入ったままでデジタルスチルカメラのレンズを傷つけることがあります。

DSC-T33をお使いのかたへ

DSC-T33に装着する場合、図を参考にしてマリンパックにあるA、B部をあらかじめ矢印の方向に取りはずしてください。
(DSC-T3に装着する場合は、A、B部の取りはずしは不要です。)



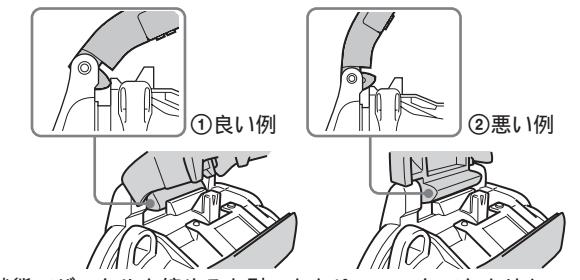
デジタルスチルカメラが正しく入っているか確認してください。

7 ボディーを閉じて、バックルを締める。

ボディーをしっかりと押さえ、バックルがカチッと上下2箇所がロックされるまで押してください。



ボディーを閉じるときのバックルの位置



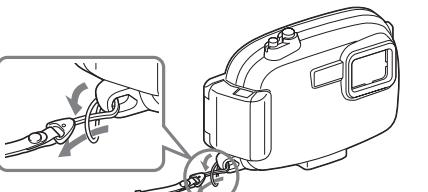
②の状態でバックルを締めると引っかかり、ロックできません。

ご注意

マリンパックのボディーを閉じるとき、Oリングの表面とマリンパックの溝に、ゴミや砂、毛髪などがついていないことを確かめてください。上記のような異物をはさみ込むと、水漏れの原因となることがあります。

ハンドストラップを取り付ける

ご使用前に付属のハンドストラップを取り付けることをおすすめします。



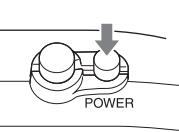
ご注意

マリンパックのボディー開閉時に、ハンドストラップのはさみ込みにご注意ください。はさみ込むと水漏れの原因となることがあります。

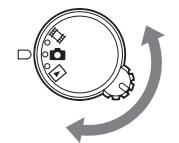
マリンパックを使う

撮影する

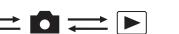
1 電源を入れる。



モードダイヤルが正常に動くことを確認してください。



モードダイヤルをスライドさせると、次のモードに切り換わります。



各モードについては液晶画面で確認してください。

2 モードダイヤルを希望のモードに合わせ、シャッターボタンを押す。

液晶画面を見ながら撮影できます。

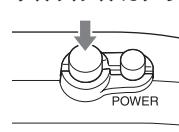
静止画を撮影するとき...デジタルスチルカメラのモードスイッチを「■」にする。

動画を撮影するとき...デジタルスチルカメラのモードスイッチを「■」にする。

動画撮影時、音声を記録することはできません。

場面に合わせて撮影をするとき...デジタルスチルカメラのモードスイッチを「■」にしてMENUボタンで設定する。

詳しくは、お使いのデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。



ご注意

デジタルスチルカメラを収納した状態で、モードスイッチをむやみにスライドさせないでください。故障の原因になります。

水中では水の屈折率が大きいため、陸上より約1/4距離が近くに見えます。したがって水中撮影でフォーカスプリセットを使用する場合、設定した距離と被写体までの実際の距離は異なります。

マリンパックでフラッシュ撮影を行なう場合、状況によっては撮影距離が短くなることがあります。その際は、水中ビデオライト HVL-ML20M(別売り)の使用をおすすめします。

デジタルスチルカメラの拡大鏡モードでは、マリンパック内のガラス面のはこりやゴミにピントが合うことがあります。その際、ガラス面のはこりやゴミを取り除いてください。

さまざまな機能を使う / 設定をする

マリンパックに収納したデジタルスチルカメラのさまざまな機能を使うことができます。

■(画面表示 / LCDパックライト オン / オフ)ボタン

MENUボタン

■(レビュー) / コントロールボタン

■(画像サイズ / 削除)ボタン

セルフタイマー / コントロールボタン

ズームする

ズームボタンを押します。

W側を押し続けると、徐々に広角(Wide)に

T側を押し続けると、徐々に望遠(Telephoto)になります。

詳しくは、お使いのデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

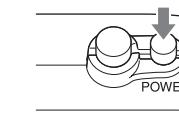
ご注意

撮影一時停止状態が3分以上続くと自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぐためです。再度撮影するには、電源を入れ直してください。詳しくは、お使いのデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

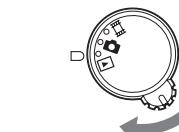
コントロールボタンを使って画像を見る

デジタルスチルカメラのコントロールボタンを使って、液晶画面で撮影した画像を見るすることができます。このとき音声は聞こえません。

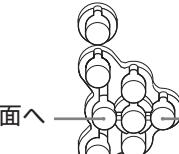
1 電源を入れる。



2 モードダイヤルを「■」にする。



3 コントロールボタンを操作して、再生したい画像を選ぶ。



詳しくは、お使いのデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

ダイビングの前に

水中撮影をする前に、水深1m程度のところで正常に作動するか、また水漏れがないか確認してから潜水を始めてください。

デジタルスチルカメラは、ダイビングの前にあらかじめマリンパックに取り付け、船上や海岸などのマリンパックの開閉は、できるだけ避けてください。ご使用の前に、マリンパックの前後のボディーの間に異物のはさみ、ゴミがないかを確認してください。

水中で撮影すると、被写体の色が青みがかって見えることがあります。このような場合は、色の補正に別売りのカラー・フィルターキットVF-MPTH(別売り)をお使いになることをおすすめします。

撮影に適した時間

太陽が真上にある午前10時から午後2時頃までが、撮影に最も適した時間です。

太陽の光が届きにくい場所での撮影や夜間の撮影には、水中ビデオライト HVL-ML20M(別売り)をお使いください。

各部の名前

